

## 検討チーム B（生活支援体制整備）検討内容まとめ

### 現状・課題

- 地域の課題を話し合う協議体が上手く機能しておらず、専門職と地域活動者がつくっていききたい具体的な目指す地域像のイメージが共有できていない。目標は具体的であることが望ましい。
- 地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）の役割が地区福祉委員会等で、あまり認識されていない。
- 地区福祉委員会では、地域の困りごと等について話し合うことが十分にできていない。
- 地域で動いていくためには、自治会との継続的な協力関係が必要だが、十分にできていない。
- 小地域福祉ブロック会議について、実施はしているが、内容が具体的でないとなりにつながりにくい。

### 目標：専門職と地域の協働による福祉のまちづくり

<p>①生活支援体制整備事業と社会福祉協議会における地域活動の統合</p>	<p>②自治会と民生委員等、地域活動者が連動できるような仕組みの開発</p>	<p>③地域発信型ネットワークの仕組みの再検討</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 高齢者生活支援センター、社会福祉協議会地域福祉係、地域支え合い推進員で圏域ごとの地域課題を共有する等、専門職の協働を進める。</li> <li>• 地区福祉委員会等において、地域の困りごと等が話し合われる場になるように、地域支え合い推進員が主体的に参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 小地域福祉ブロック会議のようなプラットフォームの仕組みづくりを、自治会等の現状把握を進めながら検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 小地域福祉ブロック会議等の各会議体の連動や運営方法について再検討する。</li> </ul>

#### 【メンバー】

地域福祉部会 東郷委員  
 芦屋市社会福祉協議会 針山氏、小阪氏  
 地域福祉課 吉川、阪口